

maonline.jp

有識者に聞く「米国に証券取引所が多い」理由 | LINE法務室長・山本雅道氏



シリコンバレーの中心に位置しているスタンフォード大学

ーMEMXとはどのような取引所ですか。

メンバーズエクスチェンジは、ロングターム証券取引所とは全く違った性質をもった取引所です。この取引所はウォール街の大規模な金融機関が作ろうとしているもので、モルガンスタンレーやフィデリティ、シタデル、バーチュ・ファイナンシャルなど9社がスポンサーになっています。

報道によると、証券の注文はすごく複雑になっているため、これをやめてシンプルな注文にして、その分手料を引き下げ、取引データなどの価格も安くしようというのが狙いです。メンバーズエクスチェンジという名前からも分かるように、メンバーのための取引所となります。

ロングターム証券取引所が成功するかどうかは未知数ですが、メンバーズエクスチェンジはこれまでの証券取引の参加者が作る取引所のため、成功はしやすいだろうといわれています。

ーロングターム証券取引所やメンバーズエクスチェンジなどの新しい取引所は日本企業にどのような影響を与えるでしょうか。

MEMXの目的は参加者がメリットを得ることですので、日本の企業にはあまり影響はなさそうで

す。LTSEに日本企業が上場できるのであれば、アメリカで長期的に事業をやっていくにあたって、投資家の注目を集められるのではないのでしょうか。

◎山本雅道(やまもと・まさみち)さん



LINE法務室長。ニューヨーク州弁護士，法学博士。慶應義塾大学経済学部・法学部卒。

Vanderbilt University Law School, Doctor of Jurisprudence (J.D.) 取得、The University of Iowa College of Law, Doctor of Juridical Science (S.J.D.) 取得。

日系事業会社、外資系事業会社、Milbank, Tweed, Hadley & McCloy LLP、Ropes & Gray LLP、金融庁・[証券取引等監視委員会](#)などを経て、2018年より現職。

慶應義塾大学法科大学院で国際資本市場法、The University of Iowa College of Lawで International Securities Regulationを教えている。

近著に『[アメリカ証券取引法入門\(改訂版\)](#)』(第一法規、2019年)。

取材・文: M&A Online編集部